

「名東区民芸能まつり」を取材しました！

「チーム名東」は2008年10月3日（金）に名東文化小劇場で行われた「区民芸能まつり」を取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部1年生の守永光希、松岡彩、串田千菜美です。

「名東区民芸能まつり」は名東区ができたころから秋祭りとして行われてきた伝統のあるお祭りです。「文化香る、活気と思いやりのあるまち」のスローガンのもと、区民の文化活動を支援するとともに、一人暮らしの高齢者を招待することにより、交流の場をもうけることを目的に行われています。学区代表および公募の一般参加により、民踊・日本舞踊・民謡・詩吟・奇術・コーラス等の発表が行われました。



会場は立見の方が続出するほどの満員盛況ぶり！出演した70代の女性は「今日は名東区民で体の調子よかったので参加しました。色々な種類の出し物があり、また知っている人が見に来てくれるので楽しいです。健康のためにも良いと思います」とお話しくださいました。また、観覧していた50代の男性は「今日は妻が踊りで出演するので見にきました。とっても上手でした。妻が踊りを習っているの、このホールで踊りの公演などがあったら見に来たいですね」とお話をされていました。

私たち取材者は、出番を終えられて舞台裏に戻ってくる出演者の方にお話を伺っていたのですが、どなたもいきいきとした表情をされていて、発表が楽しいものだったことがわかりました。人生を豊かにするための習い事も、このような発表の場があれば、よりいっそう練習にも力が入るでしょう。それぞれの団体が日頃の練習の成果を発表しあい、交流を深められるこのような会はとても重要だと感じました。また、この会の舞台設営は、舞台ボランティアの「豆の木」の方がなさっています。「豆の木」のみなさんは、音響・照明・司会など、このような舞台での公演で、なくてはならない裏方をすべて担っており、このような区の催しではいつもボランティアとして活躍されるそうです。「もう何年も関わっているので、わたしたちのなかで役割分担がしっかり出来上がっており、気持ちよく連携して動くことができます。区民の方へお役に立てているのでうれしいです」とお話しくださいました。このような区民のみなさんの善意の努力がこのようすばらしい会を支えているのだと感じました。

